

**Cet + wPTX療法(1週毎)**

医薬品名	投与量	投与時間	1	2	3	4	5	6	7
d-クロルフェニラミン注* <sup>1</sup>	10mg	30分	↓						
デキサメタゾン注	6.6mg								
ファモチジン注	20mg								
パクリタキセル注	80mg/m <sup>2</sup>	1時間	↓						
セツキシマブ注	* 2	1時間* <sup>2</sup>	↓						

\* 1: 前立腺肥大症、緑内障の患者さんには、d-クロルフェニラミン注の代わりにエピナスチンを使用。

\* 2: 初回は400mg/m<sup>2</sup>、2回目以降は250mg/m<sup>2</sup>。速度は別途指示あり。

**■副作用への対応**

- 皮膚乾燥 ----- 治療が進むにつれて乾燥と掻痒感が強くなる可能性があるので、開始と同時に市販薬の保湿剤を使用して保湿を開始する。(セツキシマブ)
- にきび様ざ瘡 ----- 顔や前胸部などに皮疹が出現するので、出現時には部位に応じたステロイド軟膏を保湿剤を塗布した上から塗布する。(セツキシマブ)
- 悪心嘔吐、食欲不振 ----- 食事が摂りづらい時は、食べられるもの、好きなものを少しずつでも食べる。水分を摂るようにする。
- 下痢 ----- 排便回数や便の性状を記録する。
- 口内炎 ----- 予防のために食後の歯磨き、頻回(8回/日以上)のうがいをする。
- 好中球減少 ----- 感染症予防のために、外出後だけでなく自宅で過ごす時も手洗い・うがいを頻回(8回/日以上)に行う。
- 電解質異常 ----- マグネシウムが低値になる可能性がある。(セツキシマブ)
- 脱毛 ----- 点滴後、早ければ2週間程度で髪の毛が抜け始める。帽子やウイッグを利用する。
- 末梢神経障害 ----- 治療を繰り返すことによって手足がしびれることがある。
- 関節痛・筋肉痛 ----- 点滴後、関節痛や筋肉痛を感じることもある。痛みが強い場合は鎮痛剤を使うことがある。